

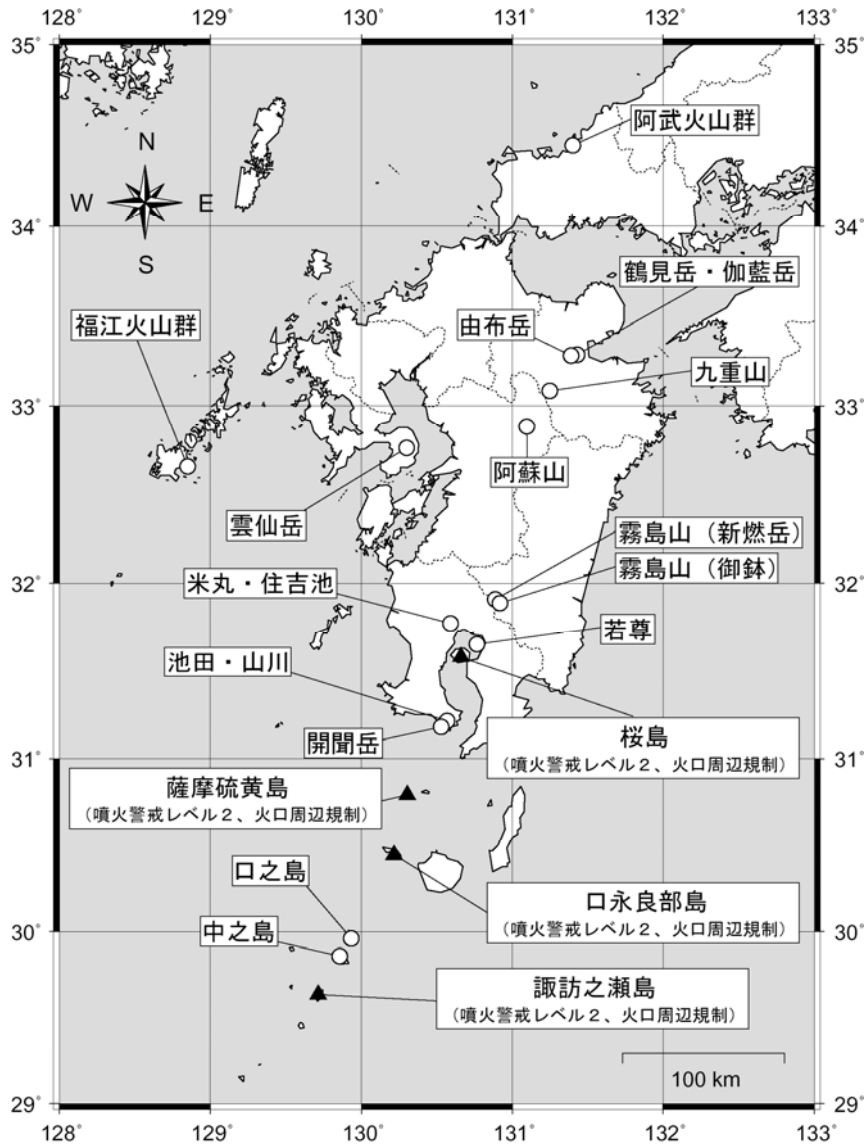
管内月間火山概況（平成 21 年 6 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（6月30日現在）

火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）：桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島
 噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）：九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）

噴火予報（平常）：阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



凡例
 ▲：噴火警報発表中の火山 ○：その他の火山

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 21 年 7 月分）は平成 21 年 8 月 7 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所、国土地理院、京都大学、九州大学、独立行政法人防災科学技術研究所、独立行政法人産業技術総合研究所、大分県及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

17日に実施した現地調査で、ごく微量の降灰を確認しました。また、南側火口壁の噴気孔で火炎現象及び赤熱現象を引き続き観測しました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口周辺では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山（新燃岳）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内及び火口外の西側斜面では引き続き噴気がみられており、火口内に影響する程度の噴出現象が発生する可能性がありますので、火山灰等の噴出に警戒が必要です。

霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

昭和火口では噴火が 29 回発生し、そのうち、13 回が爆発的噴火でした。南岳山頂火口では噴火が 10 回発生しました。

26日02時22分と29日23時15分の昭和火口の爆発的噴火では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が5合目（昭和火口から500～800m）まで達しました。

火山性地震は少ない状態が続いており、山体の膨張を示す地殻変動も特段の変化は観測されていません。

昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化する傾向がみられますので今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

桜島では、引き続き昭和火口及び南岳山頂火口から1km程度の範囲に大きな噴石を飛散させる噴火が発生すると予想されますので、これらの火口周辺では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発で、噴煙の高さは火口縁上概ね 200mで推移しました。火山性地震はやや多い状態が続いています。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

噴煙活動はやや活発な状態で推移しました。遠望カメラ（新岳火口の北西約 3 km）の観測では、新岳火口から白色噴煙が時々観測されています。

火山性微動は4月から増加していましたが、5月上旬をピークに減少して5月23日以降発生していません。

GPS連続観測では、2008年9月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化が、2009年2月以降鈍化し、6月に入り認められなくなりました。

口永良部島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね 1 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳^{おたけ}火口では爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生し、そのうちの 31 回が爆発的噴火でした。

諏訪之瀬島では長期にわたり噴火を繰り返しています。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。